

活 動 明 細

- ◆ 取組の名称 「元気さとやま応援プロジェクト事業」
- ◆ 日時 令和 5年9月 1日～令和 6年2月29日
- ◆ 場所 安芸高田市
- ◆ 主催 NPO法人百華倶楽部
- ◆ 協力 谷川裕之(会員)
- ◆ 概要 里山の未利用バイオマス(竹、木)の資源化事業として竹チップパーを購入し
荒廃した竹林整備をするとともに、チップパーで粉砕したチップやパウダーを利用
することで安心安全な農作物を育て、化成農薬で衰えた土を豊かな土壌に戻す
- ◆ 写真

様式第2号

事業計画書

1 事業の名称
里山の未利用バイオマス(竹、木)の資源化事業

2 実施地域
(注) 広島県中山間地域振興条例(平成25年10月施行)第2条の規定に定める中山間地域を記載すること。
広島県安芸高田市

3 事業概要
(注) 社会的背景や地域の現状を踏まえた事業の概要を簡明に記載すること。
過疎化、高齢化が進む中山間地域の里山、特に竹林は手入れが行き届かず、荒廃の一途をたどっています。
竹に隣りて言えば、農家から数十メートルの新成林や竹林は、昔は見通しの良い、いわば「人間と動物とのバッファゾーン」であったのが、荒廃して「竹やぶ化」することにより、そこが猪や鹿、そして猿の「踏み場」となって、夜になると農地への最短距離のアプローチとなり、農作物の被害が増加する一方です。
また、昨今の異常気象による大雨により、竹やぶの中で倒伏した枯れ竹や伐りっぱなしで放置された竹があれば、それが一気に下流域に流れ出し、それが橋などに引っ掛かって障害物となり、洪水などの災害を誘発する恐れがあります。
単に、竹林内での間伐のみで、それをそのまま放置してしまうのであれば、結果的には上記を何ら解決するための手段とはなりません。そこで、「竹林整備」に「伐り出した竹の粉砕」を付け加えることにより、農業分野や畜産分野での利活用といった新たなアドバンテージを増大させ、地域住民主導での活発な里山や竹林整備に結びつけてゆこうとする事業計画です。
竹チップパーや竹パウダーは、それ単体でも有用な堆肥となり、また防草効果の高い被覆材としても使えます。ウクライナ問題等で、肥料の価格が高騰している昨今、自宅裏の竹やぶを資源化することができれば、「有機」「減農薬」「無農薬」などの高付加価値で「安心安全な」農作物を育てること、そして化成農薬で衰えた土をもう一度豊かな土壌に戻してゆくことも可能になります。
さらに言えば、里山の水をきれいな状態で下流に流してゆくこと、それは下流域に住む人たちまでを配慮した活動であり、里山の豊かさまで繋がってゆく大きな活動の一環でもあります。(竹が繋ぐ「里山」と「里海」の循環と再生)

